

第 2 回

島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

令和4年3月22日

会議要録

令和3年度 第2回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

会議体の名称	令和3年度 第2回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局(担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	令和4年3月22日(火) 16:00~17:30	
開催場所	島田市役所4階第3委員会室	
議題	<報告事項> (1) 島田市の令和3(2021)年における人口動向について (2) 転入者・転出者アンケート結果について	
出席者	創生市民会議 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島田市自治会連合会常務理事 竹林健次郎 ・ 島田青年会議所理事長 落合辰也 ・ (株)FM島田代表取締役社長 八木和夫 ・ 島田市小中学校PTA連絡協議会会長 荒波宏則(欠席) ・ NPOクロスメディアしまだ理事長 大石歩真(欠席) ・ 島田商工会議所副会長 鈴木國近 ・ 島田市商工会会長 岡村修 ・ 島田市観光協会副会長 村田共績 ・ 島田市農業経営振興会会長 仲田裕子 ・ 島田商業高等学校校長 松本稔章 ・ 島田市校長会会長 池谷英人(島田第二中学校長) ・ 島田掛川信用金庫地方創生室長 原田佳典 ・ 島田・榛北地区労働者福祉協議会会長 樋熊敦志 ・ 島田公共職業安定所所長 小林和敏(欠席) ・ 静岡県立大学(学生) 八峠友香(経営情報学部1年) ・ 島田工業高等学校(生徒) 山本翔太(2年) ・ 島田工業高等学校(生徒) 佐藤孝則(2年)(欠席) ・ 島田市市長 染谷絹代
	オブザーバー	静岡県中部地域局局長 鈴木史朗
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牛尾副市長 ・ 濱田教育長 ・ 今村市長戦略部長
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 中村、興津、永田、酒井
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員名簿 ・ 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表 【資料1】 令和3(2021)年における島田市の人口動向 【資料1(参考)】 令和3(2021)年人口動向 コロナ禍における傾向 【資料2】 転入者・転出者アンケート結果について 【資料3】 島田市のデジタルトランスフォーメーション(DX)について 	

<開会の挨拶>

○市長戦略部長 皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます島田市市長戦略部長の今村と申します。よろしくお願ひいたします。それでは、ただ今から、「令和3年度第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。それでは、島田市市長の染谷から、御挨拶を申し上げます。染谷市長よろしくお願ひします。

○市長 皆様、こんにちは。市長の染谷でございます。本日は御多用の中、島田市まち・ひと・しごと創生市民会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。この会議は、本日が今年度2回目の開催となります。前回は、10月12日に開催しており、「第2期総合戦略」の進捗に関する評価、検証について、皆様から御意見を頂戴いたしました。令和2年度における第2期総合戦略の取組に関しては、「コロナ禍であっても基準値を上回る項目が6割を超え、着実に推進している」と、評価いただきました。令和6年度の目標達成に向け、人口減少の状況、課題を踏まえながら、引き続き、本市の特性や魅力を生かした施策展開を図っていきたく考えています。さて、本日の会議では、「令和3年の島田市の人口動向」、「転入者・転出者アンケート結果」について、御報告させていただきたいと考えております。また、前回会議では、皆様から「デジタルトランスフォーメーション」に関わる御意見を多くいただきましたので、意見交換の時間には、「島田市のデジタルトランスフォーメーション」について御説明をし、その後、皆さまから自由な御意見を頂戴したいと思います。限られた時間ではございますが、本日は、様々な観点からの御意見や御提言をいただくことで、この会議を有意義なものとする事ができるよう、皆様のお力添えを賜ることをお願ひ申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

○市長戦略部長 ありがとうございました。今回初めての参加される構成員の方がいらっしゃいますので、自己紹介をお願ひしたいと存じます。

(自己紹介)

島田青年会議所 落合辰也様

島田工業高等学校 山本翔太様

○市長戦略部長 ありがとうございました。なお、本日は、島田市小中学校PTA連絡協議会 荒波宏則様、NPO法

人クロスメディアしまだ 大石歩真様、島田公共職業安定所 小林和敏様、島田工業高等学校 佐藤孝則様が、所用により欠席となっております。

<議事（報告事項）（1）、（2）>

○市長 それでは、議長を務めさせていただきます。皆様、よろしくお願いいたします。早速、議事に入ります。本日の議事は、島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する報告事項が2点ございます。それでは、（1）「島田市の令和3年における人口動向について」、（2）「転入者・転出者アンケート結果について」2点まとめて、事務局から報告をお願いします。

○事務局 **資料1、1（参考）、2**の説明
地方創生推進の効果や進捗を測るため、令和3年の島田市の人口動向結果と転入者・転出者アンケートによる社会動態のきっかけや理由の傾向について説明
・令和3年の人口動向の説明
・コロナ禍における傾向の説明
・転入者・転出者アンケート結果の説明

○市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はありませんか。

（島田市自治会連合会）

○A 構成員 アンケートにおいて、生まれた土地を理由に転入する人が増えているのは、市内企業が地元就職に力を入れた努力が表れた結果だと感じた。

○市長 ありがとうございます。アンケート結果の説明について補足をする、転入者の住む場所を決めた理由について、昨年3位だった「生まれた土地、以前住んでいた」が1位になり、1位だった「通勤・通学の利便性」が2位となっています。ほかに意見・質問はよろしいでしょうか。この後も意見交換の時間がありますので、気になる点があれば、後半の意見交換の際に御質問いただければと思います。

○市長 続きまして、次第の5「意見交換」に移ります。前回の会議では、「デジタルトランスフォーメーション」に関するご意見を、多くいただきました。そこで今回は、皆さまからお話をお伺いする前に、島田市のデジタルトランスフォーメーションの取組状況について、情報提供をしたいと思います。担当課、説明をお願いします。

○DX推進課 **資料3**の説明
島田市におけるデジタルトランスフォーメーションについて説明

○市長 専門用語を使ったシステムについての説明が多く、市民にどのような利便性が生まれるかの説明が無かったので、補足して説明いたします。
島田市においては、まずは、市民にデジタルの利便性を感じてもらいたい。その上で、産業分野でもデジタルを活用し、利便性の向上を図っていきます。
また、島田市のDX推進課は県内でのトップクラスの取組を行っているものと自負しています。

(島田市商工会)

○B 構成員 「しまいく」はさらに良いものになっていったらいいなと思う。こういったもののおかげで、島田市には「子育てしやすいまち」というブランド力がついている。その中でも、仕事と働きたい人のマッチングにも力を入れてもらえる嬉しい。一方で、「しまいく」はIDの管理など、マイナポータルと似たような機能があるように感じており、セキュリティ面が問われるので、この辺りも上手くやれると良いと思う。

(島田青年会議所)

○C 構成員 DXについては、県の青年会議所でも議論しており、大変興味深く聞かせてもらった。
市民に分かりやすいよう、物事を簡略化していかななくてはならない一方で、セキュリティにも注意が必要だと思う。
利用したい人々がデジタルを活用できないことがないよう、DX支援員による講座を実施しているのはよいことだと思った。

(島田掛川信用金庫)

○D 構成員 スマホの使い方が分からない人に向けて簡単な利用方法を教える講座を実施している。支店を市内10店舗構えており、家山や笹間の方に住む人であれば、市役所に来るよりも負担が無いと思うので、是非市とも協力してやっていきたい。

(FM島田)

○E 構成員 市のDXの取組で自治会のスマホを使ったサービスは自分も利用している。自治会の会合や行事などの案内、防災などの連絡が入り、良いものだった。

(島田市自治会連合会)

○A 構成員 DXの目的は作業の効率化であると同時に、市民サービスの向上が重要である。一昨年市の補助を受けパソコンを整備してからは、大きい自治会では、メールで情報のやりとりをしたり、zoomを活用したり、デジタルの活用が進んでいる。

産業でDXが進めば、働きやすさや雇用創出で社会増につながる、子育て支援が手厚くなれば、子どもが生まれやすくなり自然増につながる。こういった取組を市内でスタンダードに回していき、DXと地方創生をセットで考えてもらえると良いと思う。

(島田・榛北地区労働者福祉協議会)

○F 構成員 DXを進めていくのであれば、まずは市民へのアピールが必要だと思う。よろしくお願ひしたい。

(島田市観光協会)

○G 構成員 DXは、災害情報や道路遮断、物資情報などに活用出来たらよいと思う。

(農業経営振興会)

○H 構成員 DXの取組は素晴らしいと思ったが、理解できる層とできない層が分かれてしまいそうだった。利便性を説明するため、出張説明があるとよいと思う。

本会でも、ホームページを立ち上げたものの、販売に繋げることができない状況である。市のホームページと連携し、市の手法を教えてもらうことができたと思う。

○市長 デジタル支援員は教えてほしいという声を上げてくれれば、1クール3回以内で出張して教えに行きます。教えてもらいたい人を集め、申し込みをしてください。会議の場などに出向き、教えることも時間の調整がつけば可能です。

(島田市校長会)

○I 構成員 3月に新型コロナウイルス感染者が多く出たため、離任式などの集会がリモート開催ばかりになった。そんな中、1人1台端末を活用し、思い出として動画を作って流したりした。教育現場では動画づくりやリモート研修、このようなことが日常になった。市民生活においても、普通に使えるようになってくると効果が目に見えてくると思う。

タブレットを活用すれば一人ひとりの能力によって学習することができるため、学びに合わせて別室でタブレットを用いて学習できる環境を作ったことで、全国的に不登校が増えている中、島田市は10人以上不登校が減っている。今後多様化していく学習にもどう対応するかが求められていく。学校では18~20クラスの半数以上が同時にタブレットを使うが、島田市では3~4クラスが回線を繋ぐとインターネットが落ちてしまう状況で、県内会議に参加できないことがあった。来年からは改善されるということで期待している。

(島田商業高等学校)

- J 構成員 1人1台端末は、高校での普及は全国的にも低い状況である。静岡県は、まだ活用方法が詰められていないことを理由に、端末の所持は各家庭に任せるとの方針である。そんな中でも最近の生徒は、スマホでアプリ開発をしており、発想は柔軟にできている。
島田市の人口動向を説明されたが、人口ビジョンとどう関わっているのか補足してほしい。
高校生の就職については、最近は大半の生徒が地元で就職したいと言っており、コロナ禍でもほぼ全員が第一志望に就職することが出来た。また、近年は大手に行きたい、製造業に進みたいという子が増えている。
進学する子も増えているが、大学も県外に進んでしまうと戻ってこない傾向にあるので、できるだけ県内の大学に行ってもらえるようにと気にしている。

- 事務局 人口ビジョンとの関わりについて説明します。
目標人口8万人の推計と比べ、出生数は目標に届いておらず、社会増減についても、転入超過を目標としているものの、去年は転出超過で目標と異なる結果でした。
ただ、説明でもあったとおり、コロナ禍により外国人の国外転入・転出が通常と異なる傾向になっているなど、単年の結果だけでなく長期的な目で見ていきたい。

(島田工業高等学校)

- K 構成員 高齢者と若者でスマホの使い方にギャップがあると思う。若者にとってスマホは当たり前のものである。地域とのつながり、ということも考えると、高校生が高齢者にスマホを教える場があれば、市の活気にもつながると思った。
- 市長 高齢者に出向く形で高校生がスマホを教えてくれれば、孫に教わるような気分になりとても嬉しいことでしょう。是非早ければ令和4年度から実現させたいと思います。

(静岡県立大学)

- L 構成員 大学では、課題の提出等がどんどんデジタル化していつている。市の取組についてもこれまでは身近に感じることはできなかったが、デジタルを活用して周知していくことで、近いものに感じる事が出来ると思う。
- 市長 若者の流出について思うことはありますか。

- L 構成員 県外、特に都会には有名な大学や企業があり、どうしても目がいつてしまう。一方で、地元の情報はあまりなく、市内の魅力ある企業の存在も分からないのではと思う。デジタル化で地元企業の魅力が分かりやすくなるとよい。

(島田商工会議所)

- M構成員 産業ポータルサイトの説明があったが、これは全国の競争だと思うので、是非推進して行ってほしいと思った。一方で、製造業などではリアルな交流も大切になってくる。リアルとバーチャルの融合に期待している。
求人に苦慮している中で、先ほどの、地元就職したいという学生が多く、ほぼ全員が第一志望に行けたという委員の言葉が有難かった。
- 市長 高校生は、毎年企業訪問をしています。また、こういったことをしたら良いのではないかという声を聞かせてください。

(島田市商工会)

- B構成員 個人的な話だが、弊社では県外から中途採用をした。なぜうちなのかと聞いてみたら、県という境界を取っ払って、仕事で選んだとのこと。市内の人材を活用するのはもちろんだが、枠を超えて外部から求人することを考えるのも必要だと思う。
- 市長 ありがとうございます。
まだまだ、ご意見は尽きないかと思いますが、予定の時間となりました。
最後に、オブザーバーとしてご参加いただいています、中部地域局 鈴木局長より、本日の会議についてご意見をいただきたいと思います。
- 鈴木局長 市について親身になって考えている方々により活発に意見交換が行われる会議ですので、大変楽しみに参加させていただきました。
この会議は本来の目的がまち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に係る協議の場と言うことですので、人口増減の部分について感想を述べさせていただきます。
まず、自然動態ですが、これはいくら頑張っても長期的な減は避けられないものであり島田市が現在策定している第2次総合計画においても、「縮充」という考え方を掲げているものと思います。
また、社会動態については、地域間競争、取り合いのような状況になっており、県全体で考えるとそのような状況はどうかと考えてしまいます。そのような中、島田市はDXを活用することで、産業振興と子育て支援に力を入れていて、目のつけどころがさすがだと感じています。
地域間競争ではなく、全ての地域が勝ち組となるためには、世界中に交流人口・関係人口を増やすことが大事です。これは地方創生には必須の視点であります。交流人口・関係人口で人の流れが活発になれば、流れが無限大に広がります。こういった人々が増えることで、移住・定住や企業誘致にもつながっていくことでしょう。
島田市は、自治会のICT化や島田市版ネウボラの取組、中高生のまちづくりへの参画などに積極的に取り組むだけでなく、大井川、川根温泉、SL、蓬莱橋等の地域資源も多く有しています。

交流人口や関係人口の拡大は1つのまちの取組だけでは限界があることと思います。

中部地域局はこのような広域的な課題に地域の皆様と一緒に取り組んでいきますので、これからもよろしくお願いいたします。

○市長

鈴木局長ありがとうございました。

本日は、皆様からも前向きな意見、提案が出され、とても有意義な意見交換の時間になったと思います。

本日、皆様からいただいた御意見については、今後のまちづくりに生かして参ります。

皆様の御協力により、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。ありがとうございました。

それでは、会議の進行を事務局へ戻します。

○市長戦略部長

ありがとうございました。

最後に、来年度の開催についてです。

年度が明けましたら、年間の会議開催スケジュール及び新たな構成員のご報告の依頼を通知いたします。通知が届きましたら、ご確認、ご対応いただくようお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして「令和3年度第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。

本日は、ご多用の中、ご出席いただきまして、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

～終了（17:30）～